



宮島達男の視点

ちゃんとほめてあげる。社会の厳しさも教える。

卒展は最後の授業

まず感動

一買い上げの判断基準について

まず感動ですね。びっくりしたりとか、わあっとインパクトがあったり、とにかく自分の心が動かされるっていう、そういうことでしょうね。そこが一番大きいです。そうでないと表現としては難しいと思うので。

で、そのあとで、感動するものがたくさんあったとすると、感動の度合いがどのくらい強いのか。それと、同じように感動したんだけど、こっちはこういう意味を持っている、こっちはこういう考え方をしている、そういうバランスでどっちかを選んだりするわけですね。でも一番最初に優先するの

は感動だと思いますね。すごくシンプルですね。

一選考委員の間で意見が違ふことはあるんでしょうか？

もちろん。ここ3、4年やってるけれども、意見の食い違いっていうのはいつもありますよね。そのときにはだいたい話し合って決めますね。

たとえば、いろんな人たちがいろんな視点で見ているので、だからこの絵はこういう視点で見るとこういうふうな解釈できる、また、こっちは作品ではこういう問題を扱ってるけれども、こっちは作品ではこう。

で、あがってくる作品っていうのは、意見は違ってるけれども心を動かすっていう基準は満たしていることが多い

んですね。だからその中での優劣をつけるっていう話になってくるので、だいたい話し合って、なるほどなってみんなが納得できるようなところになりますね。

一学長の意見だから重いということもなく？

ないです。審査員はみんなそれぞれの意見をしっかり持っている人たちなので、その中でやっていって、それでどうしてもっていうときは学長とか、そういう人がバランスをとっていくんだと思います。ただ今までそういうケースはないですね。みんな話し合って、納得して、みんなで合意して、賞を与えています。

卒展プライズとは？

学長、副学長、外部の審査員を加えた選考委員によって選ばれた、卒業制作に贈られる賞のこと。これまで茂木健一郎氏、小山薫堂氏がゲスト審査員として招かれた。そのまま買い上げ作品となることもあるが、優秀賞の作品が買い上げ候補になる年もあるので、卒展プライズ=買い上げ、ではない。

真面目にピュアに

一芸工大生の特徴は？

そうですね、美術評論家ではないので言葉でなかなか説明はできないんだけど、芸工大の特徴っていうのは、ピュアなところじゃないかな。変に垢に染まってない、流行に乗ってない、そういうところかな。それは変わらないですね。

みんなやっぱり、ちょっと変ちくりんなものであっても、ものすごく真面目にピュアに取り組んでいる、そういう作品に仕上がってますよね。

逆に言うと、今の時代とかをちゃんと勉強してない、とも言えるんだけどね。首都圏の大学のようにそっちの情報がいっぱい入ってきて、そればかり見ていると結局何にもならないんだけどね。

もっと勉強してほしいと思うんだけど、良い面と悪い面と両方あるんだよね、芸工大の特徴として。ピュアさっていうのはとてもいいし、それは将来大きく育っていく素地になるのでとてもいいんですけど、もっといろんなことに興味を持ったりしてほしいし、山から下りて街へ遊びに行ってみてほしい。

アパートと大学の往復で、たまにオーヤマとかでしょ？全然情報が偏ってるというか、ドグマになっちゃってる感じがあるので、まあそういう部分がピュアさを生んでるっていうのもあるんだけどね。



2006年買い上げ作品 釜屋りえ「女」



表現しようという意思

一逆に変わってきていることは？

卒展自体が4年前からここ（大学）に統合されたので、それぞれの学科、学部というのが入れ子状になって、お互いをしっかり見るようになってきて、交流をとるようになってきて、表現しようっていう意思みたいなものがとてもある、そういう卒業制作になっています。

つまり、なにかを伝えようとしているっていうかね。今までだと、自分がやってきた研究みたいなものを、ただ単に勉強しましたって。たとえば保存修復でもそうだし、歴産でもデザインの分野でもそうだったんだけど、自分はこれこれ勉強しました、はいおしまい。

そうじゃなくて、もっと見る人たちにアピールをしようというような。で、それはね、美術科、日本画とか洋画とか彫刻とか、そういう表現をしていくような人たちと一緒に卒展をやってるからなんだよね。そういうのを見ると、伝えようとする意思みたいなものが強固にあるので、それで見える人たちの心を打つので、そういうものが影響してるんだと思います。

それはとても良い変わり方をする。狙い通りなわけですね。卒展をここで同時期にやるっていう意味があると思います。

買い上げは一期一会

一記憶に残る買い上げ作品について

そうですね、いろんなことはあるんだけど。特に買い上げという卒展プライズの話をするとな、卒展プライズっていうのは外部の目でいろんなものを判断しようっていうことで、外部からの審査員を招いてやっているんですね、いつも。芸工大の先生はもちろん入るんだけど、それプラス外部からゲストの審査員を呼んできてやっています。

で、そうすると何が起るかっていうと、ずーっと見続けている先生たちは、この子は1年生からこんなふうになってきて、こんなに頑張ってる、こんなにいい絵ができた、ってそうやって見るでしょう？

でも、外部の人っていうのはその過程をまったく知らないところで作品だけ見るので、一期一会なんですよ。

だから一瞬で見る人を捕らえることができるか、さっき言った感動とかパワーとかインパクトとかそういうものがある作品をピックアップするから、意外とあんまり成績が良くない子が買い上げになったりしたことがありました。それはちょっと学部先生たちも愕然、みたいな。

一それはもしかして工芸科のバイク（Rolly-Free）ですか

・まあね（笑）あれは一番最初のプライズだったし、ある意味象徴的なものだったね。だから良く覚えてるんだと思います。

彼はそこから頑張ったんだと思いますよ。大学院に行って、最終的には自動車メーカーに入って、バイクのデザインをするようになりました。だからたいしたもんだよ。



一番最後の授業

一買い上げの意義とは

みんなもそうだと思うけど、良い意味での競争っていうのは、力が出るよね。それで頑張った人をちゃんと誉めてあげるっていうのは大事なことです。

わりといま平等っていうことで、成績も全部Aをつけたりと、徒競走も1位2位をつかなかったっていうことでもあるんだけど、でもやっぱり勉強して研究して、一生懸命やった人をちゃんと誉めてあげるっていうことも必要なのかなと思って、その意味はあると思いますね。

もうひとつはさっき言った外部の目。研究をしていく過程で、一生懸命努力しました、わかって下さい、っていうのは社会に出ると通用しないんだよね。努力をしても正確に認められないことも多い。

だから、ある意味卒制っていうのは社会に一步出るその手前で、一番最後の授業と考えているので、社会の目っていうのはそういう厳しい面をもっているんだっていうのを身をもって教えてあげるというかね。そういう意義があります。

学校の教育では努力をした分だけちゃんと評価される。でも社会はそうじゃない。成果としてちゃんと人の心をつかめるものを作ったかどうか。人の心をつかむような研究がなされたかどうか。

それは同じ努力をしても、こっちはほうが良い悪いっていうのは絶対でくるから。そんなことを伝えられたらな、と。それが買い上げの意義だと思います。

買い上げで先輩を知る

それともうひとつの買い上げの意義っていうのは、学校の中を美術館にする、美術館大学構想っていうのがあって、それで卒業生の作品を展示しています。

そういう買い上げで自分たちの先輩がどんなものを作ってきたのかを学生たちが直接見ることができるので、その意味もありますよね。



2007年買い上げ作品 花野明奈「踊る身体」

もっと勉強してほしい

一在学生に向けて

これはもうさっきも言ってるけど、勉強してほしい。知らないことをどんどん自分で勉強してほしい。

たとえば今現在、特に近現代の歴史だとか、あんまり興味を持ってないのかもしれないけど、大事なと思うことは勉強してほしい。そういうことをすることによって表現の幅とか研究の幅が大きく広がるので。

社会のリバウンド

とてもピュアで無垢なだけで、ピュアすぎてしまうと、社会に出たときにそのリバウンドというか、それがすごくでかいんですよ。

たとえば大学とアパートの往復しかしてないとなると、先生も優しいし、友達も優しいし、風景も綺麗だし、飯は安いしうまいしみたいな、もう天国なんですよ。そこしか見てないと、いざ社会に出たときに、めちゃくちゃ絶望するわけ。

まわりの人たちは悪い人たちばかりだし、なんとかして騙そうとしてくるし、誰も認めてくれない誉めてくれない。そういう状況のなかで、腐っちゃうんだよね。

なのでなるべく、制作っていうことになったらこういうピュアな環境でそれでいいんだけど、それ以外のところでいろんなことを勉強して、街へ出たり、東京へ出るのもいいし、いろんな情報を自分なりにしっかり勉強していかないと、社会に出たときにリバウンドが大変です。



2006年買い上げ作品 遠藤勇太「Rolly-Free」



宮島 達男
Miyajima Tatsuo

1957年東京都生まれ
東京芸術大学修士課程卒業
東北芸術工科大学副学長、デザイン工学部長



松本哲男の視点

買い上げになるな。うらやむよりも、悔しがれ。

買い上げの基準とは

驚きだね。ぱっと見たときに、はっとさせられるような、我々お年寄りが見ても、今まで見たことのないようなやつだっている、それが一番大きい判断基準かもしれない。これは我々じゃあ考えつかないよねっていうようなやつを一番求めているね。

こっちは夢を買うわけよ。一生懸命みんなに作品を見せてもらって、自分にはできない夢がその中にあるっていうのが一番大きいね。

もう直感だね。たとえば技術的にどうだとか、色彩的にはどうだなんてことは全然関係なし、ただ驚くだけ。漫画を見てわあっと驚くような気持ちで。だからこっちは無の状態にして。

一ぱっと目につく作品というのは他の

審査員の間でも同じものなのですか？

大体同じだね。意外と。これ見たことないよねっていうのが最初の言葉なのかもしれない。だから、既成のものではないってことを求めているのかな。どっかの真似だよとか、どっかで見たことあるよねとか、これはあの先生の真似をやってるねっていうのは最初っから外して。その人が下手だけどオリジナルを持ってるっていうのをすごく大切に考えるね。

芸工大生がおかしくなってきた

一卒業制作から見る芸工大生の特徴や変遷については

おかしくなってきたね。今まで見たことのないような作品がどんどん出始め

たし、絵っていうのはこうあるべきだっていう概念をどんどん壊してる。すごくいい状態だと思うね。だから、みんな一番生き生きしてきたんじゃないかな。

前、むこう（山形美術館）でやってたときなんて、日本画の学生はただ飾ればいって感じだから、与えられた場所も狭いし、そうすると絵も小さくなる。でも今はみんな違うだろう。少なくともちょっと自由になって、卒業制作展が場を変えて、大成功だったと思う。

それと一番大きいのがね、作品にへばりつくようになったこと。自分の絵、作品の前に自信を持って居るんだよ、意外と。で、説明するんだ。「ここがいいのに、わかんねえのかお前は」っていうような感じで。あの積極性がなかったら、これから社会に出ていった時に、だめなんだよ。そういう

卒展の歴史

現在、卒展はそれぞれの科の実習棟や本館を使って行われている。このように学内で行うようになったのは2006年2月の卒展からである。それまでの卒展は山形美術館で行われていた。大学から美術館までは遠く、搬入や設置の面から言っても大学で開催するメリットは大きいだろう。

力がついてきた。

昔の「絵だ」っていう概念をどんどん捨てて、なんか見てこれはいかぬって思うようになった。大変な違いが出てきてるよ。

きっかけは場所が変わったせいだろうな。発表の場所がここにひとつにまとまったことで。

それと大きいのは1・2・3・4年生ではっきり仕事分担したことだよ。3年生以下が部屋を大掃除してくれたりなんかして、4年生しっかりやって下さって感じで、自分たちの部屋を提供しなきゃならないじゃない。でもそれでお互いに刺激しあってるんだよね、4年生の仕事を見て。

ああいうことっていうのは、非常に無駄なようにも見えるけど、先賢ってことを意識できるともいいチャンスになってると思う。先輩のためならっていう気がおきたんだよ。

見せる努力

他の科の連中とお互いに刺激し合いながら見られる。同じ場に否が応でも入れられちゃうから。特に工芸なんてのは汚い部屋で、でもそれを見せる」っていう努力ができるようになったのは、これから作家として、プロとしてやっていく上で、一番大切、重要なポイントを勉強してるんじゃないかな。

意義なんてない！

買い上げの意義なんて言うけど、意義なんてないって言いたい。ただ夢を買ったんだっていうことかな。それも大なる未完成の夢を。だから完成された作品がトップになるんじゃないって、そういうものから外れちゃったやつをなるべく選ばないって。

そうすると逆に言うと、うちの大学の持つてくる枠を崩すことになるんだよね。先生方のをそっくり真似して描いたようなやつが普通はトップになるんだけど、そういうこと抜きに考える。やっぱりいろいろなやつがいるから面白いんで、そういう可能性を、教育とはまたちょっと違った目で見ると買い上げ賞。

いかな。見せ方まで勉強しないと意味ないんだよね。

他人と比較して、自分の作品がどうであるか、大いに赤恥をかかなくて、「ああやだなあ、自分はこんなに下手だったか」っていうのが学生のときから始まった。それは大変な違いだよ。

反逆してるやつが面白い

一印象に残っている作品について

奥くて嫌になったのがあったなあ（2006年買い上げ作品『女』）、あの彫刻作品の。でもそれは賞になったんだけど。そういうインパクトなんだよね。見たことないっていうか。

今、現実的にみんなはビエンナーレとかそういう展覧会で活躍するわけでしょ。そうするとね、とにかく自分を持っていること、表現力だから。自分はこうだって叫んでる作品が良かった。

オートバイ（2006年買い上げ作品『Rolly-Free』）だって科では最低の点数を付けられた。こいつはだめだ、って。逆だよ、こいつは面白いよ。そういう、まったく素人から見て、反逆してるやつがすごい面白いと思うんだよ。

先生方ってのは違うんだよね。先生ってのは1年2年3年と教えてきて、



あんなものが選ばれてすごく悔しい。

その悔しさを持って卒業したほうが得。

一刺激を与えるための？

そう、刺激を与えるためのもの。こんなものも選ばれるんだっていう。先生方にこういうのも面白いんじゃないって提案してるだけであってさ。

こいつは優秀だってことは絶対あり得ない。どっちかっていうと悪くしてる。良くなるやつじゃないよ。それよりも劣等生のほうが伸びてる。

買い上げになるな自分を信じる

一賞をとった人たちに向かって油断したらだめだよと言ったりは？

言うんだけどわからない。舞い上が

ってるから。中にはほんとに天才もいると思うけど、9割方だめになる。

だから若いときはこんなものもらわないほうがいい。評価されないほうがいいよ。ただ自分を信じること。

こんな賞をもらって喜んでるようなやつはだめだよってことを言いたくてやってるようなものだから。「買い上げになってあいつは失敗した。ざまあみろ」ってみんなが言わなきゃ。

真実はもっと後ろにあって、そのときに一番大切なのは劣等感。誰も頼らないこと。自分を一番信じること。

油断するやつなんて、そういうやつはおだててあげるんだよ。あ、こいつだめになりそうだって（笑）。世の中そんなもんじゃないから。

妥協しない心

自分に妥協しない心ができる賞であつたら素晴らしいと思うんだよ。これはただ単なるパフォーマンスの夢であって、それが即作家になれるっていうパスポートじゃないよ。



芸工大らしさ

一大学の枠や既成概念が壊されていても、やっぱり芸工大生ってこういうところがあるよね、変わらないねっていうことは

真面目。徹底して真剣に考えてる。それがあるから壊したいんだよ。生真面目っていうんじゃないんだよ。

人の言うことをそのまま論議みにしてやってるんじゃないって、そういう真面目さじゃなくて、人間本心に真剣に考えたときに、これは要る、これは要らないっていう、本当の姿を発見しようとする、そういう気構えのあるやつが相当増えてくる。

だから、一見壊してるけれども、芯にあるものは真面目だっていうこと。僕らも、そういうことを見極めた上での判断。

夢

夢を持ったやつを評価したい。学校の先生方の評価も大事なもののけど、まったく部外者として考えたときに、夢がある、そういう夢をこの子は叶えてるよっていうもの。

そういうのは意外と先生に評価されない。一番劣等生がよくやってくれる。どっちかっていうと。先生から外れたやつが。でもそういうやつが世の中にいるっていうことはとっても大切。人とは違う、既成概念にとらわれないでやってるっていうこと。

馬鹿の証明

一学科の先生方と審査員の視点の違いから発掘された生徒にとっては、買い上げの意義はあるのでは

でもそれを完全に信じ込むと馬鹿だって言われる。買い上げされたからって俺はすごいんだって思い込むのは。馬鹿だっていう証明をもらったと思えばいいんだよ。そのぐらい謙虚でいればいい。

勲章じゃないけど、掲りどころにな

るじゃない、買い上げになったんだっていう。それをすべて勲章のごとく思ってたって、世の中そんなに甘くない。

一学生にとっては励みになると思うのですが

なるだろうけど、あんまりそんなことは感じてほしくない。学校で優等賞もらったやつってのは大体だめになるからね。もう確実に悪くなる。最優秀とったやつが一番良くなるかっていうと大間違いで、どっちかっていうと最後から5、6番目にいるやつが良くなる。

悔しさなんだよ。すごく悔しいっていうか、劣等感の塊でものを作ってる。だからハングリーでなくちゃだめ。「あいつより俺はだめだ」っていう劣等感の塊で、でもそこで食らいつくつかつかないかの違い。そうなってくれ

ばいいんだけど、そのためのひとつの手段だね、買い上げは。

ひとつの勝負だと思えばいいんじゃない。世の中もっと真剣な勝負の場がどんどん出てくるから、みんなも今の20代の勝負でもう終わっちゃう人はだめで、30、40になったときに初めて本当の勝負だと思う。

落選者にこそ意味のあるもの

一ある意味で、選ばれなかった人にとって意味のあるものなのでは

意味がある。あそこでどうして俺はだめだったんだろうなって。だから選ばれなかったやつがどう感じるか、あんなものが選ばれてすごく悔しいって思うじゃない。その悔しさを持って卒業したほうが得。

劣等感の塊でいい

あんまり優秀にならないほうがいいよ。先生に「ああいねえ。トップだよ」って言われたときは「もうだめだよ」って思ったほうがいいよ。若いときは劣等感の塊でいいんじゃない。

だからこんな買い上げを貰うることなんかないんだよ。買い上げなんて、あんなのただお遊びでやってるだけですよ、くらいに考えていいんじゃないの。まわりに恨みをつくるためのものだから。



松本哲男
Matsumoto Tetsuo

1943年栃木県生まれ
宇都宮大学教育学部美術科卒業
日本画コース教授を経て、学長に就任
日本美術院同人・理事

